

環境経営レポート

対象期間：2023年5月～2024年4月



発行日：2024年7月1日



株式会社 KODAI



®環境省

エコアクション21
認証番号0006914

目 次

1. 組織の概要(Plan)
2. 環境経営方針(Plan)
3. 環境経営組織表(Do)
4. 環境経営目標(Plan)
5. 環境経営計画(Plan)
6. 環境経営目標に対する実績の評価(Check)
7. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容(Check)
8. 環境関連法への違反、訴訟等の有無(Check)
9. 代表者による全体の評価と見直し(Action)

1. 組織の概要

(1)事業所及び代表者

株式会社 KODAI 代表取締役 小鯛 信之

(2)所在地(記載の全事業所が認証・登録範囲)

本社・工場 〒673-0514 兵庫県三木市志染町戸田1838-268
加古川工場 〒675-0113 兵庫県加古川市平岡町中野288-1

2021年5月より本社機能を加古川工場から三木工場へ変更

(3)環境経営管理責任者及び担当者

環境経営管理責任者(統括):田中 祥之 (常務執行役員)

本社・工場担当者:大城 正人 (本社・工場 工場長)

加古川工場担当者:本田 英之 (加古川工場 工場長)

(4)事業内容

建設機械足回り部品の溶接、機械加工及び組立・塗装
産業用ロボット部品の機械加工

(5)設立

1962年

(6)事業所の規模

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
資本金	←	←	←	←	←	←	←	←
売上高	47億円	59億円	62億円	51億円	40億円	57億円	70億円	42億円
従業員数	121人	135人	135人	136人	128人	132人	130人	118人
敷地面積								
加古川工場	17181m ²	←	←	←	←	←	←	←
本社工場	17000m ²	←	←	←	←	←	←	←

注1)事業年度:5月～翌年4月

注2)2011年度から三木工場稼働、2019年度に三木第二工場完成

注3)従業員数は期初の値を示すので、最新の値とは一致しない

(7)許認可事項

無し

(8)認証・登録範囲

建設機械部品・産業用ロボット部品の製造

2. 環境経営方針

株式会社 K O D A I

環 境 経 営 方 針

〈環境理念〉

当社は、建設機械部品の溶接・機械加工・組立や産業用ロボット部品の機械加工の事業活動を継続的に続けていくにあたり、「お客様に満足して頂ける製品を創ろう」を合言葉にしています。地球環境保全のために、事業活動に伴う製品サービスに関する環境経営を継続的に推進し、企業の社会的責任として積極的に自然との調和を考え、健全な環境保全活動に取り組めます。

製品に対する要求が例年厳しくなっていく中、人材不足の課題に直面しています。更なる自動化設備の導入を進め、効率化を推進し課題解消を目指します。また新工場の完成により、新たな事業への展開も行っていきます。

〈行動方針〉

当社は、建設機械部品の溶接・機械加工・組立や産業用ロボット部品の機械加工の事業活動を通じて、以下の項目に取り組むことを宣言します。

1. 環境関連法規・条例・規則等を特定し遵守します。
2. 環境経営目標を定め、その目標を達成する為に全社一丸となって取り組み、目標は定期的に見直して、環境経営の継続的な改善に努めます。
3. 環境教育を実施し、全従業員に対して環境意識の大切さを認識させます。
4. 環境負荷を改善する為に次の事項を重点的に取り組みます。
 - (1) 化石燃料の削減(CO₂排出量の削減)
 - (2) 水使用量の削減
 - (3) 廃棄物の分別の徹底と排出量の削減
 - (4) 電力使用量の削減(CO₂排出量の削減)
 - (5) 化学物質使用量の削減
 - (6) 仕掛在庫の削減
 - (7) 不適合品の低減
 - (8) グリーン購入
 - (9) 製品への環境配慮
(自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する項目)
5. この方針について全従業員に周知すると共に、環境への取り組みを環境経営レポートとして取り纏め、必要な情報を社会にも公表します。

制定 2013年5月7日

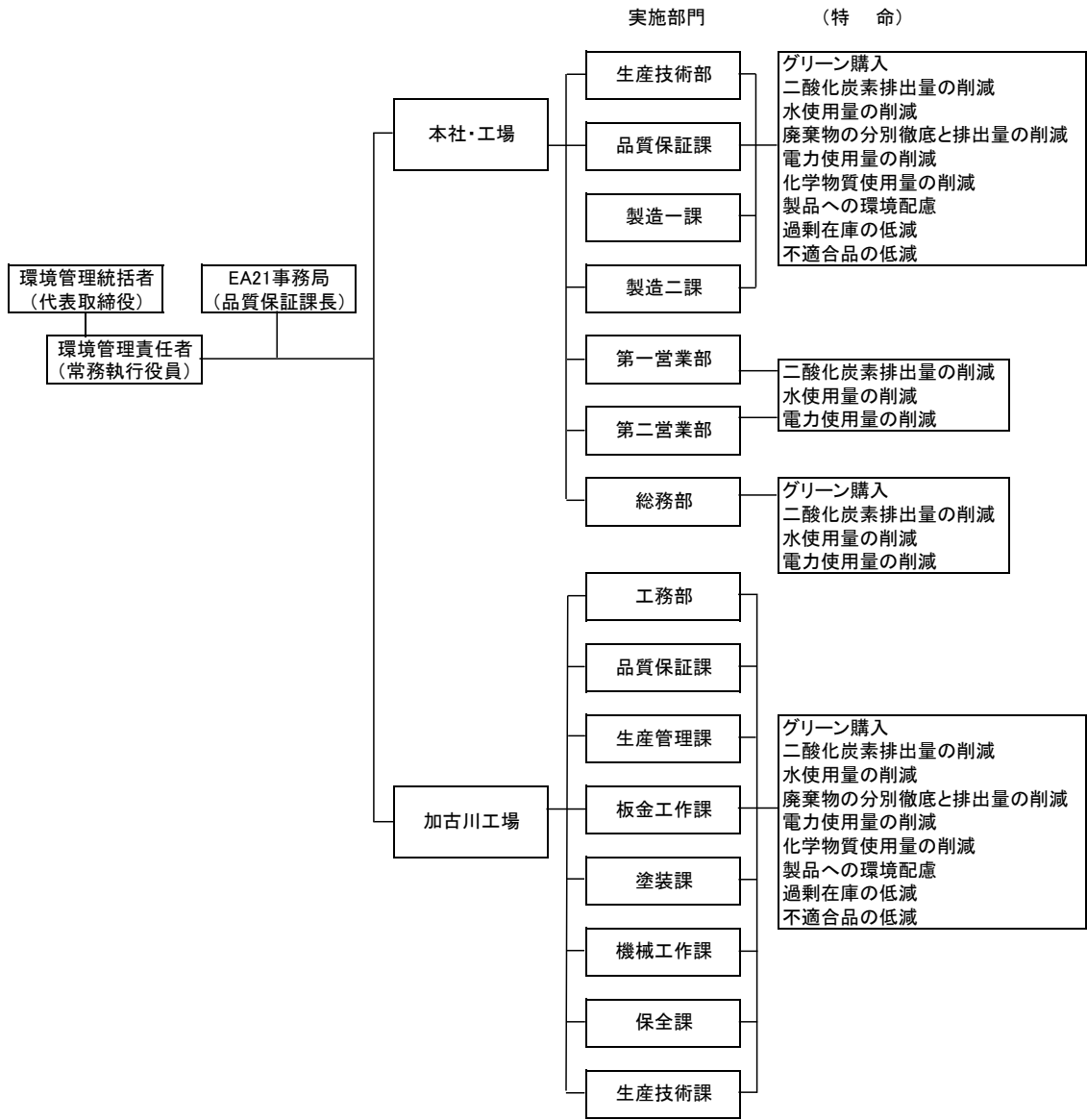
改正 2021年5月1日

株式会社 KODAI
代表取締役 小鯛 信之

3. 環境経営組織表

EA21 環境経営組織表

制定:2010年5月7日
改定:2024年6月3日



職位	役割・責任	権限
環境管理統括者 (代表取締役)	①EA21の最高責任者 ②環境経営方針の制定 ③EA21システムの承認 ④EA21の経営資源の確保 ⑤環境管理責任者の任命 ⑥EA21全体の評価と見直し	EA21の確立・実行・維持・改善に関する 全権限
環境管理責任者	①経営者の代行 ②EA21のシステムの確立・実施・維持・改善 ③保管フロンの管理責任者	EA21の確立・実施・維持・改善に関する 指示の権限
EA21 事務局	①法規制等の把握及び監視測定、届出等、 法規制等の全て ②EA21マニュアルの見直し・改定 ③環境経営レポートの作成 ④環境経営計画の実績把握 ⑤教育・訓練の実施及び記録 ⑥その他環境管理責任者の支援	環境管理責任者の指示により、左記に 関する事項の全部門に展開する権限
EA21部門責任者 (各部門長)*	①部門のEA21に関する業務を確立・実行・ 維持・特命事項	左記の事項に関し部署内従業員に対し 指示、フォローする責任と権限
社員	手順・ルールを遵守する責任・特命事項	—
共通	①環境改善の提案 ②当該環境改善の実施	—
製造会議	毎月1回開催し、目標の達成状況及び 活動計画の実行状況を審議	環境コミュニケーション 情報伝達

4. 環境経営目標

1) 中期環境目標(本社工場・加古川工場)

環境経営目標(自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する取組)

項目		年度	基準年度	目標				
			2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
		2023年比	>>>>	△0.5%	△1.0%	△1.5%	△2.0%	△2.5%
売上高 (100万円あたりに換算)	100万円	4283						
二酸化炭素	kg-CO ₂ /原単位	266.55	265.22	263.88	262.55	261.22	259.89	
一般廃棄物	kg/原単位	2.06	2.05	2.04	2.03	2.02	2.01	
産業廃棄物	t/原単位	0.0588	0.0585	0.0582	0.0579	0.0576	0.0573	
水使用量	m ³ /原単位	0.354	0.352	0.350	0.349	0.347	0.345	
化学物質使用量	kg/原単位	7.08	7.04	7.01	6.97	6.94	6.90	
購入電力	kg-CO ₂ /原単位	238.42	237.23	236.04	234.84	233.65	232.46	
化石燃料	kg-CO ₂ /原単位	28.13	27.99	27.85	27.71	27.57	27.43	
資源使用量	t/原単位	2.98	2.97	2.95	2.94	2.92	2.91	
製品生産量	t/原単位	2.94	2.93	2.91	2.90	2.88	2.87	

自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する項目(部品の製造のため)はないので、数値目標は設定せず行動目標とする。

グリーン購入は毎年一品目増やすことを目標にする。

注1) 中長期目標は今回新たに再作成したので、基準年度を2023年に見直して作成した。

注2) 6項の実績の評価の際に使用した2023年度の目標値については、2022年度の環境経営レポートに記載の数値を使用。

注3) 基準年度は5月から4月までの実績値で算出している。

注4) フロン保有量/原単位は、売上げに左右されて達成度が大きく変わってしまうので、フロン保有量の調査は毎年行うが、環境経営目標より2021年度から削除した。

注5) 資源使用量は、金属(鉄)、溶接ワイヤ、切削液、潤滑油、防錆油、紙をいう。

注6) 電力によるCO₂排出係数は、0.311kg-CO₂/kWhを使用している。

2) 2024年度の目標設定

2024年度は、2023年度の結果を基準年度として設定する。

5. 環境経営計画

主な環境活動取組内容

No.	取り組み項目	活動計画実施の内容
1	電力量の削減	1. 空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃) 2. 持ち場離れ時の節電励行の呼掛け 3. 空調フィルターの定期清掃 4. 休憩時間の消灯徹底 5. 残業時間削減の取組み推進 6. 使用電力量の公表・掲示 7. 板金製品の中国からの輸入推進
2	化石燃料の削減	1. エコ運転励行の呼掛け 2. 燃料記録徹底と社内公表 3. アイドリングに関する取り決め 4. 車両の点検励行(定期・始業)及び記録
3	一般廃棄物の削減	1. ゴミ分別の徹底(分類及び場所の指定) 2. ミスコピー防止啓発、裏紙の再利用の徹底 3. 多量コピーの削減検討、ペーパーレス会議の推進 4. 段ボール、雑古紙の無料回収推進 5. 機密書類の無料持ち込み推進
4	産業廃棄物の削減	1. 分類及び場所の指定 2. 廃棄物処理量の社内公表 3. 年間を通じての啓蒙活動 4. 作業ミスによる不適合品増加の抑制 5. 切削液や洗浄、化成処理液の濃度管理による排出量の削減
5	水道水の削減	1. 節水励行の呼掛け 2. 車両洗車の適正化 3. 使用水道量の公表・掲示 4. 切削液や洗浄、化成処理液の濃度管理による使用量の削減
6	化学物質使用量削減	1. 塗料膜厚の徹底管理 2. 化成処理工程の条件管理 3. 作業ミスによる使用量増加の抑制 4. 主要物質使用量の監視
7	グリーン購入推進	1. 事務用品での購入推進 2. コピー再生紙の利用 3. グリーン商品購入比率の把握・社内公表
8	環境に配慮した生産活動	1. 朝のミーティングにて不良発生の周知と注意掛け 2. 不適合品伝票を利用し、原因追究、対策を実施し再発を歯止め 3. 月1回品質会議を行い、品質改善活動による品質向上 4. 関連工程リードタイムの確認と見直し 5. 月末在庫カウントし、数量調整 6. 外注会社と連携し、委託工程の工数短縮検討 7. 会社敷地の清掃活動(毎週水曜日に実施) 8. 環境測定実施(粉じん、特定化学物質、有機溶剤) 9. 環境測定実施(振動、騒音) 10. 環境測定実施(排ガスVOC) 11. 環境測定実施(マスクフィットテスト)

6. 環境経営目標に対する実績の評価

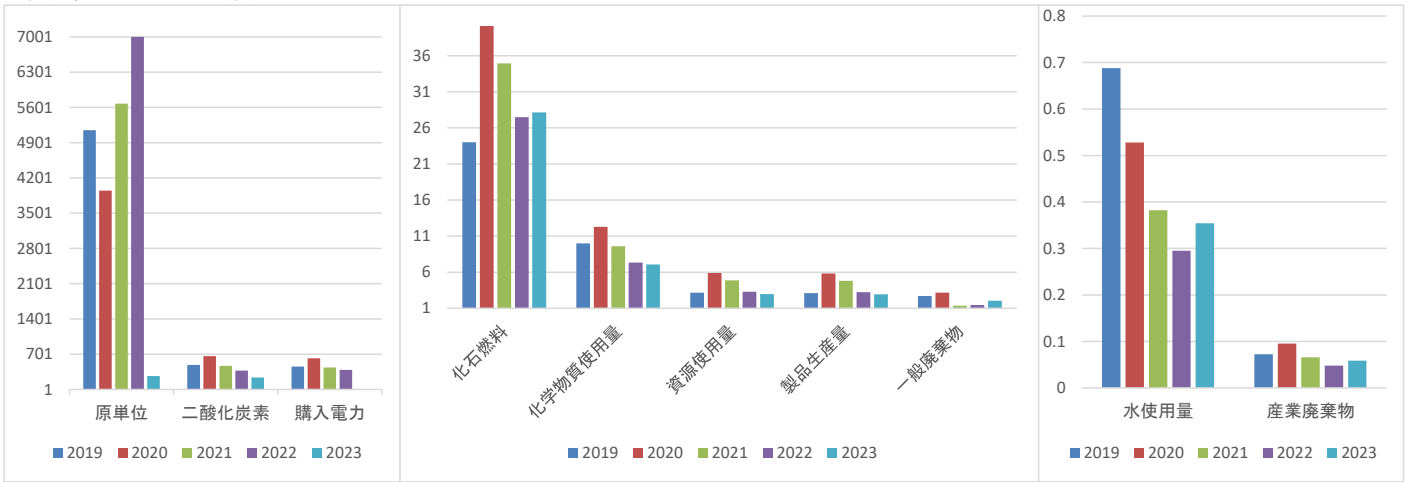
2023年度(2023年5月～2024年4月)の結果、年度目標(2023年5月～2024年4月)に対する達成度

No.	項目	単位	2023年度 2023.5～ 2024.4	2022年度 2022.5～ 2023.4	2021年度 2021.5～ 2022.4	2020年度 2020.5～ 2021.4	2019年度 2019.5～ 2020.4	前回達成 度%(結 果/目標)	今回達成 度%(結 果/目標)	前回評価 (○/×)	今回評価 (○/×)	今年度 目標値
1	原単位	100万円	4283	7004	5676	3948	5148					
2	二酸化炭素	Kg-CO ₂ /原単位	267	375	469	662	486	78	97	○	○	275
3	一般廃棄物	kg/原単位	2.06	1.45	1.37	3.15	2.70	107	152	×	×	1.35
4	産業廃棄物	T/原単位	0.0588	0.0479	0.0657	0.0954	0.0724	67	83	○	○	0.0710
5	水使用量	m ³ /原単位	0.354	0.295	0.382	0.528	0.688	44	53	○	○	0.674
6	化学物質使用量	kg/原単位	7.08	7.33	9.59	12.30	9.98	75	72	○	○	9.78
7	購入電力	Kg-CO ₂ /原単位	238.42	390.45	434.37	619.66	454.29	87	101	○	×	236.68
8	化石燃料	Kg-CO ₂ /原単位	28.13	27.48	34.93	42.75	24.00	79	81	○	○	34.59
9	資源使用量	t/原単位	2.98	3.28	4.88	5.88	3.15	56	51	○	○	5.79
10	製品生産量	t/原単位	2.94	3.24	4.80	5.83	3.11	56	51	○	○	5.74

注1: 2023年度二酸化炭素総量: 1141617.82Kg-CO₂

注2: 化学物質使用量が間違っていたので修正(2021年度・2022年度)

各指標過去5年間の推移



7. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容

- 2023年度は2019年度と2020年度と2022年度の各指標を基準にして評価している(昨期の環境経営目標参照)。
2023年度は生産が落ち込み顧客がライン停止を行ったりした影響で、年度を通しては当初立てた売り上げ目標に対して大きくダウンとなった。それにより環境経営目標に対して殆どの項目で目標をクリアすることが出来た。来期は今年度より生産は微増となるが、今期同様目標達成に向けて従業員一同で取り組んでいきたい。
- 二酸化炭素排出量は目標をクリアすることが出来た。昨年度から輸入を継続しており、それにより溶接の社内負荷が減少していること、LEDの効果も出たものと思われる。電力会社を変更したことで排出係数が大きく下がったことも要因の一つに挙げられる。引き続き在庫の適正化を行い、加工時間や溶接時間の短縮、輸入化の促進、作業の効率化を行い、更なる削減に取り組んでいく。
- 購入電力に関しては目標値をクリアすることが出来なかった。無駄な残業を控え適切な勤怠管理は出来ていたが、今後については現場改善活動で工数低減等の現場改善活動を活性化すると共に、持ち場離れ時の消灯の徹底、省人化・無人化を促進し無駄な残業を減らすよう推進していく。
- 化石燃料については、生産の減少に伴いトラックでの輸送回数が減ったことで目標をクリアすることが出来た。来期も生産が低い状況が続くので、それに見合った運用を行っていく。
- 一般廃棄物排出量については、目標をクリアすることが出来なかった。生産は減少したが、空いた時間で4Sを行ったことで廃棄物増加に繋がったと考える。来期も生産はそこまで多くないが、ゴミの分別を確り行い削減に努めていく。
- 産業廃棄物排出量については、目標をクリアすることが出来た。塗装量の減少に伴い、廃液等の回収量が減少したことが達成の要因と考える。塗装系以外の産業廃棄物についても生産量に応じて減少している。来期は生産が若干上がるが、目標を達成出来るよう濃度管理等を確り行いながら対応していく。
- 今年度の水使用量は目標を達成出来ている。生産量の減少と海外向けの出荷数が下がったことが達成の要因と考える。来期は生産量は若干上がるが、出来ることをしっかり行い削減に取り組んでいく。
- 化学物質使用量は目標値をクリアする結果となった。生産の大幅減少により塗装する製品が減ったことが達成の要因となっている。塗装従事者も増えたが各々の技量も向上しており、適正な塗膜を維持管理出来るようになってきているのも要因の一つと考える。顧客とコストダウンの一貫で打ち合わせも行っており、更に使用量が減るような提案を実施し削減を推し進めていく。
- 物質使用量・製品生産量に関しては、今年度は目標値をクリアすることが出来た。製品生産量は前年度より10%減少だったが、売上げは約40%減少している。
- 来期も不安定な状況下にあるが、2023年度の環境経営を継続する。

8. 環境関連法への違反、訴訟等の有無

1) 法的遵守義務を受ける主な環境関連法は次の通りである

法規名	実施事項	改正年月日	レビュー実施日	遵守状況
グリーン購入法(法律第100号)	グリーン購入法適合品購入の推進	2021.5.19	2024.1.15	○
廃棄物処理法(法律第137号)	事業者の産業廃棄物の処理・保管、マニフェストの管理	2022.6.17	2024.1.15	○
騒音規制法(法律第98号)	環境測定(第三者により年1回)	2022.6.17	2024.1.15	○
振動規制法(法律第64号)	環境測定(第三者により年1回)	2022.6.17	2024.1.15	○
化審法(法律第117号)	特定の化学物質使用量の把握	2023.12.13	2024.1.15	○
フロン排出抑制法(法律第64号)	業務用冷凍空調機器等の定期点検	2022.6.17	2024.1.15	○
PRTR法(法律第86号)	特定の化学物質の排出量等の把握と届出	2002.12.13	2024.1.15	○
水質汚濁防止法(法律第138号)	各種廃液により水路汚染の防止、自主管理	2022.6.17	2024.1.15	○
大気汚染防止法(法律第97号)	ばい煙発生施設の設置届	2022.6.17	2024.1.15	○
悪臭防止法(法律第91号)	塗装排気、切削油の腐敗防止	2022.6.17	2024.1.15	○
労働安全衛生法(法律第57号)	労働災害防止、安全衛生管理	2022.6.17	2024.1.15	○
消防法(法律第186号)	消防訓練、消火器の点検	2022.6.17	2024.1.15	○
高圧ガス保安法(法律第204号)	高圧ガス容器扱い	2022.6.22	2024.1.15	○
毒物及び劇物取締法(法律第303号)	少量硝酸の扱いについて	2022.6.17	2024.1.15	○
兵庫県環境保全条例(条例第28号)	規制基準の設定、規制基準(排出基準・設備基準)の遵守	2019.10.7	2024.1.15	○
環境基本法(法律第91号)	事業者の責務	2021.5.19	2024.1.15	○
循環型社会形成推進基本法(法律第110号)	事業者の責務	2012.6.27	2024.1.15	○
加古川市環境基本法令(条例第1号)	事業者の責務	2000.3.30	2024.1.15	○
三木市環境基本条例(条例第2号)	事業者の責務	2000.3.29	2024.1.15	○

2) 違反・訴訟等

環境関連法規の遵守状況を確認した結果、過去3年間違反はありませんでした。

また、関係機関等からの指摘や、利害関係者からの訴訟や苦情もありませんでした。

環境法令リストを作成し、適用条項の内容の改廃を毎年フォローしている。

9. 代表者による全体の評価と見直し

代表者による全体の評価と見直し	
実施日	2024年6月28日(金) 10:00～10:30
場所	本社3F会議室
出席者	小鯛社長、永松専務、田中常務、本田執行役員、大城工場長、小林副工場長
使用した資料	環境経営関係資料
評価	昨年度は、顧客の生産減によりライン停止日が発生したことで当初目標に掲げていた売り上げ目標はクリアすることが出来なかった。その中で各項目の目標値をほぼ達成したことは感謝したい。今期は若干生産は上がるが、継続して目標を達成出来るよう全社で取り組んで下さい。顧客からコストダウンの要請が来ている事は存じていると思います。VA/VEの提案を積極的に行い、使用量削減になるよう努めて下さい。 各現場でエア漏れ、ガス漏れが無いかも確認し無駄が出ないようにして下さい。 現場での各従業員の協力が不可欠なので、各課で出来ることは確り行っていって下さい。
見直し	今期も客先によっては生産数量に増減があります。設備負荷の高い製品は違う設備に振り、各設備で平坦化して無駄な残業にならないよう適切な勤怠管理を継続して行って下さい。特定の作業員しか設備が触れないという事にならないよう多能工化も推進して下さい。生産は上がるが引き続き現場改善を積極的に行い、金額目標達成と同時に工数低減も行って下さい。昨年度は実現出来なかったが、現在中国の材料がかなり値下がりしているので材料レベルでの輸入も推進します。また中国からの輸入アイテムと量を増やすことで社内製作量を減少させます。そうすることで環境負荷の削減に繋がります。 今期も、環境経営方針、環境経営目標、実施体制は引き続きこのままで進める。
指示事項	①人員、残業の適切な管理 ②省人化・無人化の促進 ③余分な在庫は持たない ④板金製品の中国からの輸入量と輸入アイテムの増加 ⑤中国材料の輸入促進 ⑥加工時間の短縮
2024年6月28日 株式会社KODAI 代表取締役 小鯛 信之	